

# 絵を用いた描写練習と和文英訳練習の英語アウトプットに及ぼす効果の比較

## Comparing the Effects of a Picture Description Task with a Japanese-English Translation Task

(2013年3月31日受理)

竹野純一郎 Junichiro Takeno	佐生 武彦 Takehiko Saiki	橋内 幸子 Sachiko Hashiuchi
大橋 典晶 Noriaki Ohashi	リチャード・レマー Richard J. Lemmer	

Key words : 絵の描写, 和文英訳, 英語アウトプット

### 概 要

本研究では、絵を用いた描写練習と和文英訳練習が、記述による英語アウトプット、すなわちライティングにどのような効果をもたらすのかを比較、検証した。今回の研究では、「絵の描写テスト」、「和文英訳テスト」のプレテスト・ポストテストにおいて、2つの練習グループ（「絵の描写グループ」、「和文英訳グループ」）の英語アウトプットを語数・節数の観点から評価したが、グループ間の練習効果に差があるという結果は得られなかった。この結果を踏まえて、今後の課題や絵を用いた描写練習の可能性についても言及した。

### 1. はじめに

中学校、高等学校の学習指導要領では、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、及び「書くこと」の4技能を総合的に育成する必要性が説かれている。しかしながら、実際の教育現場では、大学入学者選抜大学入試センター試験や1級・準1級を除く実用英語技能検定（以下、「英検」）一次試験、TOEICテスト等の各種試験・検定・テストが記述式ではなく客観式で行われることが多いため、実際に測定される機会の少ないスピーキングやライティングといったアウトプット技能よりも、リスニングやリーディングによるインプット技能を重視する傾向があるようだ。英語の発信力、すなわち、スピーキングやライティングによるアウトプットの重要性が高まる今日、アウトプット技能を高める練習方法を見直す必要があると考える。

本稿では、記述でのアウトプットであるライティングの練習方法の一つとして、「絵の描写」の練習効果の可能性を、一般的に行われている「和文英訳」練習と比較

することによって検証したい。

### 2. 研 究

#### 2.1 目的

従来の英語教育では、ライティングの指導といえば英作文であり、その英作文指導は語法や文法などの言語形式を定着させるために主として和文英訳という形式で行われてきた。和文英訳によって、日本語と英語の類似点や相違点に気づき両言語への理解が深まる利点があるが、日本語を英語に訳すという行為は日本語で事柄を考え英語に訳すという習慣を強化しているとも考えられる。もしそうであるならば、同じ事柄を英語でアウトプットするには、和文英訳の形式よりも絵を見て描写する形式の方が、概念を言語化しアウトプットするという言語産出プロセスに合致しているため効果的ではないだろうか。

本研究の目的は、同じ内容の事柄を絵の描写と和文英訳という異なる形式でアウトプット練習をすることに

よって、練習効果に違いが現れるかどうかを比較、検証することである。

## 2.2 対象者

参加者は、本学園子ども学科1年生40名2クラス、計80名であった。ただし、プレテスト・ポストテストで実施した英語力測定テスト、絵の描写テスト、和文英訳テストのいずれかを不受験、あるいはテストに不備のあった参加者はデータ分析対象者から除外した。また、プレテストとポストテスト間の練習期間である計10回の授業を2回以上欠席した参加者もデータ分析対象者から除いた。その結果、本研究でのデータ分析対象者は、「絵の描写グループ」30名、「和文英訳グループ」27名の計57名となった。

## 2.3 材料

次の3種類のテストを用いた。

### (1) 英語力測定テスト

英語力を測定するために、プレテストでは英検準2級2005年度第1回一次試験(筆記・リスニング)を、ポストテストでは英検準2級2005年度第2回一次試験(筆記・リスニング)を使用した。英検準2級一次試験は、筆記

テスト45問、リスニングテスト30問から成る計75問の客観式テストである。

### (2) 絵の描写テスト

英検2級二次面接試験で用いられる、パッセージと3コマのイラストのあるカードの、パッセージを除いた3コマのイラストの部分のみを「絵の描写テスト」として用いた(付録1参照)。実際の英検二次面接試験では、受検者は20秒の準備時間を与えられ、3コマのイラストの状況を口頭で描写することになるが、本研究では記述による描写を行った。

### (3) 和文英訳テスト

英検2級二次面接試験の3コマのイラストを描写する際に想定される英語アウトプット例を日本語に訳し直したものを「和文英訳テスト」として用意した(付録2参照)。なお、場面設定の最初の一文“*One day, Ayako and her husband moved into a house in the suburbs.*”や、場面変更の際に用いられる“*That weekend at the store,*”, “*Later that day,*”等は、和文英訳テストにおいても英語で与えられている。

プレテスト・ポストテストで用いた、「絵の描写テスト」と「和文英訳テスト」で想定される英語アウトプットの難易度を表1に示す。

表1 「絵の描写テスト」、「和文英訳テスト」で想定される英語アウトプットの難易度

	プレテスト		ポストテスト	
	絵の描写テスト	和文英訳テスト	絵の描写テスト	和文英訳テスト
	2009年度第1回	2009年度第1回	2005年第1回	2006年第3回
	二次試験カードB	二次試験カードA	二次試験カードA	二次試験カードB
語数	52	51	60	53
文字数	243	246	275	232
文の数	5	5	5	5
文中の単語数	10.4	10.2	12.0	10.6
単語内の文字数	4.5	4.6	4.4	4.2
受身形の文	0%	0%	0%	0%
Flesch Reading Ease	77.5	73.7	71.9	85.9
Flesch-Kincaid Grade Level	5.0	5.5	6.1	3.9

Flesch Reading EaseとFlesch-Kincaid Grade Levelは、Microsoft Office Wordを用いて測定した。Flesch Reading Easeとは、読みやすさの評価基準である。標準

的な文章が60から70で示され、スコアが高いほど読みやすいとされる。最高ポイントは100である。Flesch-Kincaid Grade Levelは、米国の学校の学年を基準にし

ている尺度である。スコアが6.0であれば、6年生が理解できる文章であることを意味し、ほとんどの文章は7.0から8.0を目標にするといわれている。表1の結果から、いずれの評価基準でも、ポストテストの和文英訳テストで想定されるアウトプットの英語が最も易しいと判断できる。

## 2.4 手順

参加者は、練習期間の前後にプレテスト・ポストテストとして、英語力測定テスト、絵の描写テスト、和文英訳テストを受けた。プレテストとポストテストの間の10回の授業において、「絵の描写グループ」は絵の描写テストと同じ形式の練習問題を毎時間2題ずつ、30分程度時間を割いて練習した。「和文英訳グループ」も同様に、和文英訳テストと同じ形式の練習問題を2題ずつ、10回の練習期間の授業中に30分程度の時間を割いて練習した。練習の仕方であるが、「絵の描写グループ」は絵を描写する形式の練習問題を、「和文英訳グループ」は和文英訳形式の練習問題を渡され、英語を書くように指示された。参加者は英語を書いて提出の後、配布された解答例を見ながら解説を受け、音読練習を行った。授業毎に2題ずつ英語を書いたため、参加者は全部で20回の記述によるアウトプット練習を行ったことになる。

なお、10回の授業の練習期間中には、30分の英語アウトプット練習以外の要因が研究結果に影響しないように、2人の担当教員が10回の授業を5回ずつ、それぞれのグループを交替して指導する形をとった。練習期間中の90分の授業内容は、最初の30分の練習以外、担当教員の順序は異なるが同じ内容であったといえる。

## 2.5 データ分析

プレテスト・ポストテストで用いた3種類のテストの分析方法を記す。

### (1) 英語力測定テスト：得点

筆記テスト45問、リスニングテスト30問、計75問の客観式テストであるので、正答した数をカウントして得点とした。

### (2) 「絵の描写テスト」・「和文英訳テスト」：語数

「絵の描写テスト」、「和文英訳テスト」を受けた参加者が、英語アウトプットとして記述した英文中の語数を

カウントした。この分析方法には、英語アウトプットの量を測る目的があった。なお、綴りの間違いに関しては、理解できる範囲であれば基本的には許容した。

### (3) 「絵の描写テスト」・「和文英訳テスト」：節数

「絵の描写テスト」、「和文英訳テスト」を受けた参加者が、英語アウトプットとして記述した英文中の節数をカウントした。この分析方法では、英語アウトプットの量と正しさを測る目的があった。節は2語以上から成り、その中に必ず主語と動詞が含まれるので、英文が書いているかどうかの最も基本的な尺度になると考えた。なお、綴りの間違いは理解できる範囲であれば基本的には許容した。主語の単数・複数形や冠詞の有無、動詞の時制や3人称単数現在形のS、進行形や受身形でのbe動詞の省略に関しても、理解できる範囲であれば執筆者間で協議の上、許容した。

## 3. 結果と考察

### 3.1 英語力について

データ分析対象者「絵の描写グループ」30名と「和文英訳グループ」27名のグループ間の英語力に差があるかどうかについて、プレテスト、ポストテストで実施した英語力測定テストの結果をもとに2要因（グループ間・グループ内）混合計画の分散分析を行った。なお、英語力測定テストについては、プレテストとポストテストでは同じ問題を用いていないが、いずれも英検準2級の過去問を使用したため同程度の難易度であると想定した。

分散分析の結果、グループ間 ( $F(1, 55)=.05$  n. s.), グループ内 ( $F(1, 55)=.05$  n. s.), 交互作用 ( $F(1, 55)=1.85$  n. s.) においていずれも有意差が認められなかったため、「絵の描写グループ」と「和文英訳グループ」の英語力は、プレテスト、ポストテストのいずれの時点においても差がないという結果であった。また、両グループともに、プレテストとポストテストの間に英語力が伸びたとはいえない結果であった。

プレテストの時点において、グループ間の英語力（筆記・リスニング）に差がなかったことから、「絵の描写グループ」と「和文英訳グループ」は等質なグループであったといえる。ポストテストにおいても両グループの英語力に差が出なかったため、30分×10回の絵の描写練

習と和文英訳練習という異なる練習形式が英語力に異なる影響を及ぼさなかったということになる。30分×10回、計20題の異なる形式でのアウトプット練習では、グループ間の英語力に差が出るほどの練習量ではないのであろう。

同じ問題を用いていないが、同程度の難易度であると考えられるプレテスト・ポストテストの結果から、グループ内の英語力の伸びを調べたが有意差は認められなかった。このことから、今回の研究では、週1回90分の授業を10回受けたことが英語力に影響を及ぼさなかったことになる。対象者は、英語が専攻でない学生であるので、授業以外でも音読練習を行い重要な表現を覚えるように指示はしたものの、英語に接する時間が十分ではなかったと考えられる。

### 3.2 語数について

表2は、プレテストの際に実施した「絵の描写テスト」、「和文英訳テスト」において、「絵の描写グループ」と「和文英訳グループ」が記述した英語アウトプットの平均語数および標準偏差を示したものである。

表2 プレテストにおける英語アウトプットの語数

	絵の描写テスト		和文英訳テスト	
	平均語数	標準偏差	平均語数	標準偏差
絵の描写グループ (N=30)	29.83	10.82	33.97	13.37
和文英訳グループ (N=27)	25.81	8.78	37.96	12.68

表1によれば、プレテストの「絵の描写テスト」と「和文英訳テスト」では、想定される英語アウトプットの語数、難易度は同程度である。同じ内容ではないので単純に比較はできないが、「絵の描写グループ」、「和文英訳グループ」ともに「和文英訳テスト」での英語アウトプット量、すなわち平均語数が「絵の描写テスト」の平均語数よりも多いようである。

「絵の描写グループ」と「和文英訳グループ」のグループ間で、「絵の描写テスト」、「和文英訳テスト」のプレテストにおける英語アウトプットの平均語数に差があるかどうか分散分析を行った。「絵の描写

テスト」(F(1, 55)=2.26, n. s.), 「和文英訳テスト」(F(1, 55)=1.29, n. s.) という結果であったので、プレテストの時点では、いずれのテストにおいてもグループ間で差はないという結果であった。

表3は、ポストテストで実施した「絵の描写テスト」、「和文英訳テスト」において、「絵の描写グループ」と「和文英訳グループ」が記述した英語アウトプットの平均語数および標準偏差を示したものである

表3 ポストテストにおける英語アウトプットの語数

	絵の描写テスト		和文英訳テスト	
	平均語数	標準偏差	平均語数	標準偏差
絵の描写グループ (N=30)	31.50	6.60	44.33	8.38
和文英訳グループ (N=27)	29.22	10.10	44.78	8.34

表1によれば、ポストテストの「絵の描写テスト」と「和文英訳テスト」は、想定される英語アウトプットの語数、難易度が同程度とはいえ、「和文英訳テスト」の方がアウトプットしやすいようである。このことが影響したのかもしれないが、「絵の描写グループ」、「和文英訳グループ」ともに、「和文英訳テスト」のアウトプットの平均語数が「絵の描写テスト」の平均語数よりも明らかに多かった。

「絵の描写グループ」と「和文英訳グループ」のグループ間で、「絵の描写テスト」、「和文英訳テスト」のポストテストにおける英語アウトプットの平均語数に差があるかどうか分散分析を行った。「絵の描写テスト」(F(1, 55)=1.00 n. s.), 「和文英訳テスト」(F(1, 55)=.04, n. s.) という結果であったので、ポストテストの時点でも、両テストにおいてグループ間で差がないという結果であった。

これらの結果は、2つの結論にまとめられようである。1つ目は、「絵の描写」よりも「和文英訳」の方が、書く内容を指示されているので学習者にとっては負担が少ないため、記述による英語アウトプットがしやすいということである。絵の描写では、絵の内容を言語化するという認知的な作業と並行して英語表現を考えなければならないので、学習者にとって負担が大きいと考えられる。

2つ目は、絵の描写練習と和文英訳練習という異なる練習形式が、「絵の描写テスト」、「和文英訳テスト」というそれぞれの形式に異なった影響を及ぼさず、同じような練習効果であったということである。いずれのグループのいずれのテスト形式もポストテストで得点が伸びていることから、絵の描写練習、和文英訳練習ともに効果があったと考えられる。ただし、今回の研究では、グループ間の練習効果に差があるという結果は得られなかった。

### 3.3 節数について

表4は、プレテストの際に実施した「絵の描写テスト」、「和文英訳テスト」で、「絵の描写グループ」と「和文英訳グループ」が記述した英語アウトプットの平均節数および標準偏差を示したものである。

表4 プレテストにおける英語アウトプットの節数

	絵の描写テスト		和文英訳テスト	
	平均節数	標準偏差	平均節数	標準偏差
絵の描写グループ (N=30)	4.97	2.23	5.63	2.02
和文英訳グループ (N=27)	4.00	1.87	5.78	1.91

表1によれば、プレテストの「絵の描写テスト」と「和文英訳テスト」では、想定される英語アウトプットの語数、難易度は同程度である。同じ内容ではないので単純に比較はできないが、「絵の描写グループ」、「和文英訳グループ」ともに、「和文英訳テスト」での平均節数は「絵の描写テスト」の平均節数よりも多いようである。

「絵の描写グループ」と「和文英訳グループ」のグループ間で、「絵の描写テスト」、「和文英訳テスト」のプレテストにおいて記述された平均節数に差があるかどうか分散分析を行った。「絵の描写テスト」( $F(1, 55)=3.01, p<.10$ )、「和文英訳テスト」( $F(1, 55)=.07$  n. s.) という結果であったので、プレテストの時点の「絵の描写テスト」において、「絵の描写グループ」の方が「和文英訳グループ」よりも、より多く節を書く傾向があったといえる。「和文英訳テスト」については、グループ間で差がないという結果であった。

表5は、ポストテストで実施した「絵の描写テスト」、

「和文英訳テスト」において、「描写練習グループ」と「英訳練習グループ」が記述した英語アウトプットの平均節数および標準偏差を示したものである

表5 ポストテストにおける英語アウトプットの節数

	絵の描写テスト		和文英訳テスト	
	平均節数	標準偏差	平均節数	標準偏差
絵の描写グループ (N=30)	5.93	1.09	6.40	1.65
和文英訳グループ (N=27)	5.11	2.01	6.74	1.58

「絵の描写グループ」と「和文英訳グループ」のグループ間で、「絵の描写テスト」、「和文英訳テスト」のポストテストにおいて、記述された平均節数に差があるかどうか分散分析を行った。「絵の描写テスト」( $F(1, 55)=3.66, p<.10$ )、「和文英訳テスト」( $F(1, 55)=.07$  n. s.) という結果であったので、ポストテストの時点でも、「絵の描写テスト」において、「絵の描写グループ」が「和文英訳グループ」よりもより多くの節を書く傾向があった。「和文英訳テスト」についてはグループ間で差がないという結果であった。

語数をカウントしたものと同じデータで節数もカウントしたので、語数で得られた結果と同様に、「絵の描写」よりも「和文英訳」の方がアウトプットしやすく、絵の描写練習と和文英訳練習の効果にそれ程差がないといえそうである。

練習期間中は、「絵の描写グループ」と「和文英訳グループ」に対して、アウトプット練習をした後には必ず英語のアウトプット例を示した。両グループの参加者は、毎回同じ内容のものを異なる形式で練習していたが、アウトプットの英語はいつも同じであったことになる。このことが、絵の描写練習と和文英訳練習の効果に差が出なかった今回の結果に影響を及ぼしていると考えられる。

## 4. まとめと今後の課題

本稿では、絵を用いた描写練習と和文英訳練習が、記述での英語のアウトプットにどのような影響を及ぼすか比較、検証してきた。練習回数に限られていたことや、練習形式は異なっても同じアウトプット内容を表現

する練習の繰り返しが影響してか、明確な練習効果の差は生まれなかった。それでもなお、この結果を肯定的に解釈すれば、絵の描写練習をしたグループは、和文英訳練習をしたグループと同じ程度、英語アウトプット量に変化があったということになる。もしそうであるならば、同じ事柄を英語でアウトプットする際には、日本語を介して英語に訳す和文英訳練習だけではなく、日本語を介さずに英語をアウトプットできる可能性のある絵を用いた描写練習も今後ますます実践に取り入れていくべきではないだろうか。

大橋(2001)の図を用いて説明すると、和文英訳練習は必ず図2のように日本語の影響を受けるが、絵の描写練習は、図1のような理想的な言語処理の仕方を強化する可能性があるということである。図3のような考え方もあるが、いつも図2のように日本語に置き換えてから英語に直す和文英訳の形式では、時間を与えられたライティングでのアウトプットでは問題ないかもしれないが、口頭でのアウトプットであるスピーキングでは間に合わなくなってくる。図1のような言語処理の可能性を追究すべきであろう。

本研究では、明らかにできなかった点が多くあるが、最後に絵の描写練習の可能性を述べさせていただいた。しかしながら、絵の描写練習は和文英訳練習より負荷が高いと考えられるので、より良い実践のためには、絵の描写によって何を表現することができるのか、日本語に頼らずに絵を言語化するにはどのような方法があるのかなど、まだまだ今後の研究課題は多い。今回は絵の描写であったが、写真や動画を描写する練習を加えたり、記述ではなく口頭での描写練習を行うなど、英語アウトプットを促すために考えられる様々な練習方法を模索しながら、今後も研究を続けていきたい。

### 日本語・英語・事物 (1)

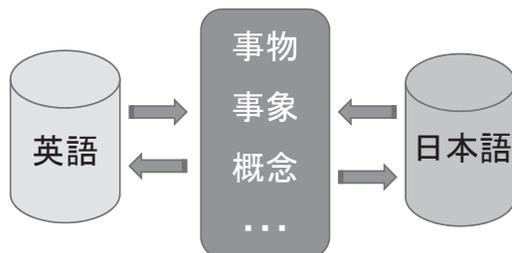


図1 日本語・英語・事柄 (1)

### 日本語・英語・事物 (2)

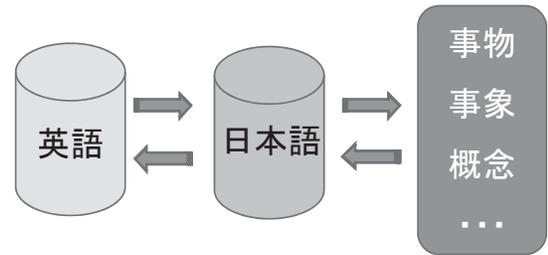


図2 日本語・英語・事柄 (2)

### 日本語・英語・事物 (3)

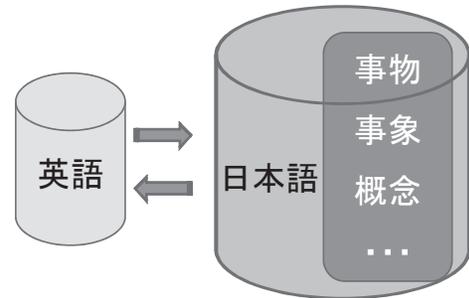


図3 日本語・英語・事柄 (3)

## 謝 辞

本研究は中国短期大学平成23年度特別研究費の助成を受けたものである。

## 引用文献

- 旺文社(編). (2006). 『2006年度版英検準2級全問題集』  
東京：旺文社.
- 旺文社(編). (2006). 『2006年度版英検準2級全問題集  
CD』東京：旺文社.
- 旺文社(編). (2007). 『2007年度版英検2級全問題集』  
東京：旺文社.
- 旺文社(編). (2008). 『2008年度版英検2級全問題集』  
東京：旺文社.
- 旺文社(編). (2010). 『2010年度版英検2級全問題集』  
東京：旺文社.
- 大橋典晶. (2011). 『『脱ネイティブ化』する英語：その  
実態と可能性；③文法：その理論』(岡山県生涯学

習大学講座資料).  
 文部科学省. (2008). 『中学校学習指導要領解説 外国語編』  
[http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_\\_icsFiles/afieldfile/2011/01/05/1234912\\_010\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2011/01/05/1234912_010_1.pdf)

文部科学省. (2009). 『高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編』  
[http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_\\_icsFiles/afieldfile/2010/01/29/1282000\\_9.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2010/01/29/1282000_9.pdf)

付録1 絵の描写テスト：ポストテスト用（アウトプット例）

絵の描写テスト

One day, Mr. Sato was asked something in English by a customer at his bookstore.



絵を見て状況を描写してください。ストーリーの最初の一文は印刷されています。

One day, Mr. Sato was asked something in English by a customer at his bookstore.  
 ( *He said to the customer, "I don't understand English."* )  
 A few seconds later, ( *A worker at the store talked to the customer in English for him.* )  
 ( *Mr. Sato felt a little embarrassed that he could not help the customer himself.* )  
 One week later, ( *Mr. Sato started attending an English language class.* )  
 ( *He hoped that he would be able to speak with customers in English in the future.* )

学籍番号 ( ) 氏名 ( )

付録2 和文英訳テスト：プレテスト用（アウトプット例）

和文英訳テスト

以下のストーリーを読み、下線部の日本語の部分を英語に訳しなさい。

One day, Ayako (アヤコ) and her husband moved into a house in the suburbs.  
 彼女は夫に「裏庭にきれいなお庭を造りましょう。」と言いました。  
 ( *She said to her husband, "Let's make a beautiful garden in our backyard."* )  
 That weekend at the store, アヤコと夫はいくつか花を選びました。  
 ( *Ayako and her husband chose some flowers.* )  
 彼女は夫と一緒に花を植えることができると思いました。  
 ( *She thought that they could plant the flowers together.* )  
 Later that day, 夫はそれらの花にホースで水をやっていました。  
 ( *Her husband was watering the flowers with a hose.* )  
 アヤコは夫に花の水やりは浴槽の水を使うべきだと言いました。  
 ( *Ayako suggested that he should use water from the bathtub for the flowers.* )

学籍番号 ( ) 氏名 ( )

